

伊能大図パネル展

～200年前の有田を歩こう～

伊能大図は忠敬翁の業績の結晶ともいべき精確な地図です。
この度、九州部分、中国西部、四国西部の原寸大複製パネルが有田にやってきます。
この機会に伊能図を身近にみてそのスケールを体感してみませんか。

日時 平成30年3月 9日(金)
10日(土)

展示時間 9:00～16:00

パネル展示説明①10:00～

②13:30～

講師 伊能忠敬研究会 会員 馬場 良平 氏

場所 炎の博記念堂 コンベンションホール
入場無料

準備品 筆記用具

靴下 ※裸足・タイツ・ストッキング不可
(パネルの上を実際に歩きます)



撮影場所 富岡八幡宮(東京都)

伊能忠敬とは・・・

江戸時代、日本国中を測量してまわり、初めて実測による日本地図を完成させた人です。

忠敬は、延享2年(1745)現在の千葉県九十九里町で生まれ、横芝光町で青年時代を過ごし、17歳で佐原村(現在の千葉県香取市)の商家伊能家の婿養子となり、佐原で家業のほか村のために名主や村方後見として活躍します。

その後、家督を譲り隠居して勘解由と名乗り50歳で江戸に出て、55歳(寛政12年、1800年)から71歳(文化13年、1816年)まで10回にわたり測量を行いました。その結果完成した地図は、極めて精度の高いもので、ヨーロッパにおいて高く評価され、明治以降国内の基本図の一翼を担いました。

伊能測量隊は文化9年(1812)と翌10年(1813)にこの有田の測量に着手していて、「伊能忠敬測量日記」にその詳細が記されています。また「皿山代官旧記覚書」には当時の受け入れ側の用意体制が記されています。

主催：有田町教育委員会・有田町公民館

問合せ先：有田町教育委員会生涯学習課

TEL 0955-43-2314 FAX 0955-42-6309

2018年は、伊能忠敬翁の没後200年に当たります。

このパネル展は千葉県香取市と香取市の友好都市である鹿島市の両市にご協力いただき実施します。